

## 令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果

### 2. 理科の調査結果の概要

#### 正答率の高い項目

| 問題の概要                                                                | 問題形式 | 正答率   |
|----------------------------------------------------------------------|------|-------|
| 1(1) 赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込む時間の違いを調べる実験の条件について、コップAの土の量と水の量から、コップBの条件を書く。 | 短答式  | 76.9% |
| 1(3) 【結果】や【問題に対するまとめ】から、中くらいの粒の赤玉土に水がしみ込む時間を予想し、予想した理由とともに選ぶ。        | 選択式  | 76.9% |
| 3(1) ヘチマの花のおしべとめしべについて選び、受粉について書く。                                   | 短答式  | 74.4% |

#### 正答率の低い項目

|                                                            |     |       |
|------------------------------------------------------------|-----|-------|
| 2(1) アルミニウム、鉄、銅について、電気を通すか、磁石に引き付けられるか、それぞれの性質にあてはまる選択を選ぶ。 | 選択式 | 5.1%  |
| 3(4) レタスの種子の発芽の結果から、てるみさんの気づきを基に、見出した問題について書く。             | 記述式 | 25.6% |
| 3(2) ヘチマの花粉を顕微鏡で観察するとき、適切な像にするための顕微鏡の操作を選ぶ。                | 選択式 | 35.9% |

#### (1) 分析

正答率の高い項目と、正答率の低い3つの項目について分析を行った。

＜正答率が高い＞結果から、以下の内容が多くの児童へ身に付いていることが分かった。

- ① 粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、土の量と水の量を正しく設定した実験方法を発想し、表現することができる。
- ② 資料をもとに、他の条件での結果を予想して、表現することができる。
- ③ 花のつくりや受粉についての知識が身に付いている。

以上の理由は、①と②に関しては、理科のオリエンテーションで条件制御について振り返りをしたことが功を奏したと思われる。③に関しては、理解していたというよりも、選択肢の難易度を考えると消去法でも正答できてしまったのではないかと考えられる。

＜正答率が低い＞結果から、多くの児童が以下の内容について苦手意識をもつことが分かった。

- ① 身の回りの金属について、電気を通すもの、磁石に引きつけられる物があることの知識が身に付いている
- ② 種子の発芽条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見出し、表現することができる。
- ③ 顕微鏡を操作し、適切な像にするための技能が身に付いている。

以上の理由は、①に関しては、金属によって特性が違うことを十分に理解できていなかった。②は、「新たな問題を見付けた」という場面を理解できなかった。③は、顕微鏡の操作が定着できていなかったと考えられる。

#### (2) 対策

##### ◎実験活動等で得た知識を転用する問題を取り入れる。

「実験をし、結果を出し、考察をして、結論をまとめる」という学習過程がスタンダードであるが、そこでまとめた結論を生かせるような異なる場面の問題に取り組ませる。これにより、得た知識を「使う」ことに思考を働かせることができ、理解を深めることができると考えられる。そのために、理科のワークドリルを複数準備する。

##### ◎実験での操作を全員が経験できるようにする。

児童全員が実験での操作を体験できるように、一度結果が出て何度も繰り返し行わせたり、実験に使う教具を十分に揃えるようにして、定着を図る。